

亭り
文家後

蜷縮海敵集
上



W 52-2
0 86
1

カ
ン
ナ
E
ジ
ツ
カ
キ
ケ
ル
ク
ワ
コ
ク

62371



豈是緒焉此失精文章乃瑕瘕也此或某不
肖之志也世俗通月之綱は付く彼四書に
致るる文を以て書集めて一編也乃至遠へる
不ハ穢者此改正の但を純ぬ凡世冊を以て人悉
道て彼四書に無ある事と知るらんは是の
始て其のちと事此志もは音韻乃道母
とく遠いなるに慮るる也

元禄第八歲次乙亥二月朔 鴨東菡父書于

賓饒堂之西軒

志らすは假名文字使凡例

一は書と轉あじり事なむとて兒女の書事此の如
あまこばらと初はつの頭くち字じ法はふなるといふは乃すなはち序ひ一いり
随したがひて是こと集あむじ又内うちれた急いその假かり名なをも三さん
書かん連れん呼この義ぎは但ただせとくいを以もつて内うちは修あ入せを
と中ちゆうはく主しゆ纂さんの抄せう等とうは従したがひて各おの假かり名な
文ぶんをよまふに然しかるべしはよめとつきて尋たづ
ね

一凡類集の序初はつの乾かん神しんの類次るいじは生なま徒たの如ごと

次つぎの氣き形かた乃すなはち終はつ末まつ情じやう状じやう然ぜん云いふ

等れ言終の類也大方かくのゴくは半列ね
 尋ねるは易かしくんがためあり
此後乃混乱
 するありしに

一 凡同ド字の羽を必しと申すは能るは能る余
 の下に入内入院入洛入魏入氷入破と云ふ
たえ 著らひ

是や故よ敷と云く推して矢しむ事すこは察
 事も要あり

一 凡鹿の字は續の去りといふ仮名も六麋麋
麋トウケトウ

等の皆去文字之樂の字は別いらは仮名な
 まの藤路夢路皆らり文字之摺はまるとする
よむち ゆちち

藍摺行摺等の皆す冬季之綱ハつふとみる
あゐ せいりゅう せいりゅう

blue paper

紺纜まきいと皆つ文字ぶんじ又水みづををらつられれ仮名かみあるる

湖うみ乘のり等ら月つきぐくつ文ぶん字じ是こゝ筋すぢハハととららのの仮名かみ

なるる線せん脉みやく月つきぐくら文ぶん字じ是こゝ結むするる月つきにに卯う

月つきああ青あお月つき水みづよ山やまああ河かああととてて一ひとここよ半はん裁さい

どどとといいふふたた是こゝはは準かぎららへへてて知しべべ

一ひとええ其その流ながるるももるるああままたた上かみのの習ひき書きにに随したがひひてて濁あぶる

事こととと心こゝろのの字じ或ある月つきんん點てんんん中ちゆうのの字じととんん中ちゆう老らう

中ちゆう木きのの字じををららああ通つうのの字じ神かみ通つうととらら又また

どどししととかかくくままるるままるるとと云いててままどどのの詞ことば母はは將まさくくして

次つぎ將まさんんどど重おもくくままるるままるるとと云いふふんんままとといいひひ威いぞぞ

變へんむらむらむらむらの類るいありと皆みな一いつすの仮名ありと
 又またさんびさんびもひらんびひらんびころんびころんびとらふをとらふ飛とびつ
 組くみつと云い詞ことばありあつた又また字あざ之の是こゝ等らの皆みな本もとに
 讀よむ方かた仮名なれども母はは書かきる方かた一いつ是こゝ自みづか然かの連つらぎ
 征せい世ぜ傳でん子しらうらうびびの下したに必かなら濁なるといふ事こととと莊じやう子し
 荀じゆん子しの類るい之のさまもも元げん定てい法ぽうののりらとと曾そう子し関げん
 子し是こゝありと

一
 け編へん志しららすつつ四し書しよれれ仮名な使づむとと書かくくととるる故ゆゑに
 倭よ洲しゆのの外がに漢かん字じのの書かくくもも亦また裁さいぬぬ但たにには
 漢かん字じとと假か名なとと縦たたたへへ本もと清せいのの昌ちやう證てい抄せう奏そうのの書かくく

連勢れんせいより引ひきて濁なる時ときは平濁へいじやくの上うへ乗のり焼やうの者もの

み結むすき又また平清へいせいの長なが重おも貂じゆ帖てふの音ね九く連れん声せいな

引ひきく濁なる時ときは平濁へいじやく乃なり丈ちやう醜しゆう條じやう聶ねつ乃なり者ものに

終しゆうる勢せい之これみ右みぎの四よ者ものと女にへどは只ただ一ひと音ねは次つぎ

色いろ一ひと仍なほてはてはちゆうくく女にああつつかかへへとと又また字じとと反はん

ああららくく事こと紀きとと於お妻さい一ひとくく韻いん書しよをを考かうぐぐふ

一ひと
詳倭韻字會
載せ畢又

一ひと人ひとの名なは次つぎと治ぢどど一ひとつつとと十じゆと重ぢゆうとと逆さかららず

使あひひをを得えたりり是こゝにに毎まのの明あららぬぬ故ゆゑ也なり

次つぎのの志し治ぢははちち十じゆのの志しふふ重ぢゆうははららうう音ね既すでにに以もて

三十一の

二の四

書多りの義も同ぐからた一人の名はどのくは
二字と通月せんやそは或人某治郎某重郎
と名よまきしつてはかたしとていれりきこひて
郎の字乃とよ付りハ太郎次郎九郎十郎と
心ゆゑ

一 今内家とれ暖簾鑑板と卯は板りせ
糸紙物終るなどりるよ斤言ハ中しくぬるも
たしど能書ぬるをたよは四書れ仮名遣甚
多し一紙ハ十とらう筋とどド敷とらう
あつととすと書ころがしといわひをね四

等の仮名のいふも音毎にひ約く者あれは文字
なまに今乃誤まるる事いふことぬる也
古歌ももき出る等の^ま生^ま揚^まとよも^ま廻^ま文^まり
れ^まめ^まと^まは^まお^まよ^まり^まと^まゆ^まく^まら^まは^まや^まら^まか
類^まは^まき^ま仮^ま名^ま違^まと^まい^まひ^まあ^まぐ^まく^まそれ^まの^ま終^まと^まこ
と^まこと^まか^まて^まき^まら^まと^ま又^ま韻^ま学^まの^まよ^まり^まは^まき^まとい^まく
あ^まや^ま日^まの^ま三^ま行^まき^まえ^ま因^まど^まく^ま喉^ま音^ま也^ま其^ま実^ま此
終^ます^まあ^まれば^ま三^ま音^まは^ま相^ま通^また^ま想^まつ^まる^ま一^ま音
此^ま四^ま音^まは^ま仮^ま名^まと^まば^まま^まる^ま一^まと^まま^まる^ま事^まの
決^まして^ま有^まま^まど^ま也^ま

一此四音の事倭後にの倭名文字かみと云ふは其の妙

法はるに申す次漢字え本各別之又文字み書

乃こまたくど口は唱なまする時もとも音づくべ

と物は因てとも字と使ひ其の倭名は深みて

其の音は後古の音なり此の音はももとも四音の

分明ありて又の法で呼ぶぐどくまて又いぬひ

をれがえ互へわらうむふの十四字又音の

終ありし奥央王横とも能ふともに相分らねぬ

刃ときり定家に此の分はとりて已は十

四音と呼ぶ形はくら放は親行とと改換し

て俗名文字の遺と定められしは尤は四書なりま
だ遺りざるも一も一は法なり一今世のやとく
あはばは四の俗名をまこと申ふて定むるを
事之今又世に傳ふる故もや吾人くく取失
あひぬるあべ一とて授けと奉ていとは京教
中國板本小冊等此人よりきてことなる韻と字
絶て四書の分毎あきざり一唯統禁方此
辭を字に大形明は云ふる之一文不通乃見
女子の事とて尤強は教家の事とかなるれごと
自然の事おきて考ふれば物終りもことなる

續をのりらな

混れらるるのあ文字次りて續をのりらな

どくまゆるまの都人乃華と足とをさるる

お〜一寔に必凡の然く志むる所あるは

以ども不思後あ事なるべ〜是も自て案

續あ此人の鼻を花といふと支内を通事

何〜ま〜一〜く〜老由もた尚考〜る尚〜ま

もや本〜うり人志の言力終とは以呂波四十

七字にく書紀と事あれハ鼻と花とを後必

もあか母耐文字は書ハ因〜るべ〜あ〜か

梓〜あ〜と〜極〜月日は枚乃〜

いふと皆を四声の訛あやまりは拘かくもどして十行じゅうぎょうの書

よ寄よせふるあべー一物ひとものふ弥陀やだ乃な六字ろくじに大道だうだうの

陸地りくぢと付合つひあを古野この北きた葛くわと屑屋くずやの軒ののりよ取

ぬと事ことの仮名かみなよ書かても音韻おんいんよ呼よくも笑わら

ぬと事ことの假かは端は着ちやく橋はしなとて音おん色しき乃な言ごん

低てい自由じゆうある教きやう人のけは四し北きた善ぜんむらとて音おん色しき乃な

事ことの口くち勝かちき事ことの豈あは習ま字じせとて音おん色しき乃な

一ひとけ四音しおんえ来き各かく別べつや抑音おしおん韻いんの長ながは依よて是こゝ

と端はむらに志しすき齒音しおんよてと志しすせそ

の一ひと形かたちやちつちつの舌音ぜつおんよてたちつちつてこの一ひと

也 濁りてむら目ぐらゝ次々もつらつ綱よる色現来
六が
 下げ知等ちのともころまゝ又体たい用よう正せい俗ぞくの品しんを
 そまはらりてそ一ひとの内の内うちをそ青あおと変へどて
 毎まい月げつする事ことのありと衆しゆの致いたすとてさういせ
 さんと云勝かつとからかてかえんと云い取ととさう
 出いるをいぞくさうなぞく云い習しゆるがごとく又
 働はたららく海うみぎ物の名なあれども後ご勢せいにらりて
 雨あめをあま色いろ風かぜとかぞ車くるま本ほんと木きの義ぎふ教きやう
 とかぞあつなぞく云い海うみりとははまをたてさるより
 他たれりり子こ交かう入い今いまと齒は舌ぜつ相さう照しやうと京きやう事じのこほし

き也

詳扶桑切韻
載世畢文

はだらづつてとせせその二

り目どかゝるもてあまお海に海どま事

と知べし御ま今だてとせその大音もば

能て分て志らずつ乃西もとの別ら切は

事りし事な御し或人の仮名文字と使

へはと個ひかんに類乃上よらつもらと事申

下母はさりて志と目ふ時分とらえ教氏と得也又

総て衆人のおらも事よ上とらぬまは志すれ

二字ととらづつのもも亦誤らぬでみの

字を遣るにのまや丁子荀子とら

内より連声りて濁るる也の事と新濁と
いふ即清齒の字と假し濁りて濁齒也
に如きことと上と下とをいふこととわらうとらとをいふこと

く次又と大槩と挙て云ふ啓上孔雀藤氏

行者以上ハ巻軸平地先陣以上ハ香以上ハ水

奇瑞好事通事以上ハ千頭万鶴神通以上ハ引

杖以上ハ是等ハ世なるれ味もも字にけへと美

進上練雀源氏判者八軸空地帰陣執著

神水天湯杏子綾子七頭命鶴普通竹杖

と云智方財ハと云る悉と字に表へり判を成

樂の舞弄^{まひ}為^{たえ}歳^{とし}の^を小^こ忌^こ氣^き乃^の家^か樂^{らく}な^なと^と穠^{じゆ}ふ
何^{なに}よ^よき^きと^とお^おち^ちの^のぬ^ぬを^を多^たく^くの^の舌^{しや}善^{ぜん}に^に嚙^かめ^めは^はと^と
す^す處^{ちよ}と^と事^じと^と田^{でん}今^{こん}人^{にん}の^の執^{しやく}希^きと^とあ^あつ^つで^でん^んと^とい^いひ
漱^せと^とら^らん^んと^とい^いふ^ふら^らに^に息^{そく}と^とり^りろ^ろよ^よび^びと^と一^{いつ}と^とし^し

一^一は^は何^{なに}も^もと^とに^にあ^あら^らず^ずき^き呼^こ法^{ぽう}の^の夏^か齒^し音^{おん}の^のと^と志^しす
せ^せそ^そき^きの^の舌^{しや}頭^{かう}中^{ちゆう}に^に在^あり^りて^て上^{じやう}顎^{かく}よ^よ付^つく^くと^と舌^{しや}も^もた^た

ら^らつ^つて^てと^と是^ぜの^の舌^{しや}頭^{かう}と^と上^{じやう}顎^{かく}よ^よ付^つく^くよ^よう^うが^がく^くは^はえ^えこ
ま^まと^と能^よく^くあ^あら^らず^ず味^{あじ}り^りあ^あへ^へ一^{いつ}極^{ごく}湯^{とう}と^とい^いふ^ふと^と氣^き
息^{そく}の^の始^{はじめ}と^と鼻^びへ^へ洩^あれ^れと^とい^いふ^ふと^と生^{せい}齒^しと^と舌^{しや}と^とた^た
習^{じゆ}ふ^ふの^の形^{かたち}と^と故^こよ^よは^は音^{おん}と^と湯^{とう}の^の時^{とき}す^すも^も亦^{また}

あはよくに呼吸し即ちちとずつとこのまゝ

事へ自だてごととせその異なりとくは云

分らるくは決よとめるもよの必舌の心と實の

奥上顎の根付息を流る声と鼻へ吐き

然に人くもどくぬ家財は多くは舌頭と上

顎に付くふぬ是舌の呼法也とゆは纏くは即

舌も小物也舌の唇を天上とゆはてん天とを

如く樹よんを付て舌乃を中よ是齒の空て

てのと云はよ舌の交て上舌ののまよ纏くも舌の生る

よ物も舌の隠る舌のり舌の何んれく舌乃を上顎は

付くてぬと云やうにうが歯の齒音の上上の音舌
 音よ後でしてぢうけ音よさうと又最ととらふ
 時の指うり舌と中よ並せてさうとらふ故よ齒
 音の板と写うきくは齒舌乃分也但
 しめりての連続の上は音のいともさうとらふ又の
 舌と中よ並ととらふ上は付る先とさうに拘らむ
 して下の音は舌音あうの音も齒音なるの
 齒音よ響くさうにれんじやうひくさうさうさ
 或時友人の絆うりさうとらふの規縮涼
 鼓の四さうと書きてをりさうとらふは彼人

規縮涼
規 縮 涼

五の四

五音

よの十

通^{つう}は^はけ^け書^{しよ}の^の名^なと^と物^{ぶつ}ぬ^ぬ唯^{ただ}五^ご韻^{いん}相^あ通^うあ^あ行^{ぎやう}
 不^ふ通^{つう}の^の道^{だう}理^りと^と多^たへ^へて^て音^{おん}と^と多^たり^りと^と入^い
 う^うと^とえ^えの^のさ^さい^いら^らよ^よの^のさ^さい^いと^とさ^さぐ^ぐと^とさ^さく^く畢^{あつそ}え^え
 よ^よりの^の為^{ため}徳^{とく}園^{えん}園^{えん}の^の友^{とも}川^{がわ}を^を東^{とう}海^{かい}道^{だう}に^に壱^{いつ}士^し川^{がわ}
 母^{はは}物^{ぶつ}く^くの^のさ^さね^ね松^{しょう}子^しと^と終^{しゆう}へ^へと^とい^いは^はる^る

一 凡^ん言^{げん}皆^が音^{おん}韻^{いん}也^{なり} 文^{ぶん}字^じ皆^が音^{おん}韻^{いん}也^{なり} 仮^か名^な文^{ぶん}
 字^じ使^しハ^ハ亦^{また}音^{おん}韻^{いん}也^{なり} 故^{ゆゑ}に^に仮^か名^な使^しと^と少^{せう}は^はた^たえ^え
 人^{ひと}を^を必^{かならず}音^{おん}韻^{いん}を^を辨^わべ^べて^て後^{のち}よ^よこ^こ言^{げん}解^{かい}文^{ぶん}字^じと^と
 明^{あきら}く^く心^{こころ}を^を了^らす^す音^{おん}韻^{いん}の^の字^じハ^ハ十^{じゅう}行^{ぎやう}ハ^ハ位^いの^の書^{しよ}教^{きやう}
 此^{こゝ}圖^ずを^を以^{もつ}て^て中^{ちゆう}に^にハ^ハ一^{いつ}用^{よう}を^を今^{いま}案^{あん}を^を以^{もつ}て^て

附紀とあづては吾の意味を以て又撰

と多くして想ひあけていひなごころ但王

之をりては附授口傳もも後へつては熟讀

祝味とる内に自然の均雨あるを

切韻二
謝畢又

一地名人名姓氏年号等ハ其數限あるハ

悉記とに及つて且又度々刪補するは

功中此混乱多う候へ

詳二
杖桑

五韻之圖

日歌	喉	舌	喉	脣	脣	舌	舌	齒	牙	喉
ア	ワ	ラ	ヤ	マ	ハ	十	夕	サ	カ	ア
イ	イ	リ	井	三	ヒ	ニ	チ	レ	キ	イ
ウ	ウ	ル	ユ	ム	フ	又	ツ	ス	ク	ウ
エ	エ	レ	工	メ	ヘ	子	テ	セ	ケ	エ
オ	オ	口	ヨ	モ	ホ	ノ	ト	ソ	コ	ヲ

アヤ候サタラナ舌ニカ牙サ齒音ハノニク脣月輕重

卷之三

五の十一

三六五音圖ト云
 或六直拗圖ト云
 是本邦音韻ノ
 模範ナリ熟味
 フヘレ今舊圖ト
 號ス
 大字ヲ直音トシ
 細字ヲ拗音トス
 拗音右ハ各行ノ
 第二音ヲ上トシヤ
 井ユエヨヲ韻トス
 左ハ第二音ヲ上
 トシワイウエオヲ
 韻トス

新撰音韻之圖

音唇	音齒	音舌	舌鼻	舌卷	音顎	喉變	音喉	韻五
ㄨ	サ	夕	ナ	ラ	カ	ハ	ア	額韻
ㄨ	ㄨ	ㄨ	ㄨ	ㄨ	ㄨ	ㄨ	ㄨ	韻
ミ	レ	チ	ニ	リ	キ	ヒ	イ	胸韻
ㄨ	ㄨ	ㄨ	ㄨ	ㄨ	ㄨ	ㄨ	ㄨ	韻
ム	ス	ツ	又	ル	ク	フ	ウ	腹韻
ㄨ	ㄨ	ㄨ	ㄨ	ㄨ	ㄨ	ㄨ	ㄨ	韻
メ	セ	テ	子	レ	ケ	ヘ	工	腰韻
ㄨ	ㄨ	ㄨ	ㄨ	ㄨ	ㄨ	ㄨ	ㄨ	韻
モ	ソ	ト	ノ	口	コ	ホ	ヲ	足韻
ㄨ	ㄨ	ㄨ	ㄨ	ㄨ	ㄨ	ㄨ	ㄨ	韻

切例
キヤ切音キヤ是為正音則此因
 舊圖則音カ乃為差餘准此

舊圖多誤而音韻不和反切不叶故某改正製斯圖以備於講習之階梯又於行之中竊作二三字之文以足闕音亦欲別三音也
 此圖猶倣乎舊製未盡其全若至論正韻則具于韻譜說并見扶桑切韻云

大字為內音右中音左外音

Handwritten text, possibly a page number or title, written vertically in black ink on the right edge of the page.

Handwritten text, possibly a page number or title, written vertically in black ink on the right edge of the page.

すぢら 假名を文字使 蜺縮涼紙集上

第一い并屯

いづづら 雷 一曰公ナカミ

いあづま 稻妻 一曰ヒカリ

いへぢら 家路 一曰カミ

いづこ 泉 一曰川ノ根

いづのぬ 伊豆 一曰守介

いづこのぬ 和泉 一曰武部

いづものぬ お雲 一曰海月

いづとづ 石清水 一曰八幡

いすぢ川 五十鈴 一曰勢列

いすぢ急 礎 一曰柱

いぢぢら 一條 一曰糸

いぢぢら 井筒

いぢぢら 板敷

いぢぢら 羊躰 一曰躰

いぢぢら 鎌 一曰和名ニ芋莖

いぢぢら 牛膝 一曰和名ニ井ノ子

いあづら

齊 束く

いんぎ

螳螂トウロウ 蟪蛄コキリ

いけずき

生食 名馬 生喫イ

いんぎ

主人女 家童子

いんぎ

姨 妻之姉妹

いんぎ

隱者 一卦

いんぎ

院主

いんぎ

院司

いんぎ

飯繩 いんぎ 綱イ

いんぎ

線 綫イ

いんぎ

平題 矢衡 鐙イ

いんぎ

旛 砲車イ

いんぎ

石突 イ

いんぎ

石使 硯イ

いんぎ

沃懸地 沃金 蔣イ

いんぎ

石摺 石法帖

いんぎ

家上産 イ 褻イ

いんぎ

頰數 いんぎ

いんぎ

黥刺 罪人 面イ ス

いんぎ

醫術

ぬんぢ

印地

ひんみ月
俗にんん

ひんぢ

彈基

いづき

不森

ノノ躍

いんぢ

引證

せうしき
引く

いんぢ

引接

接声
如東

いんぢ

稜威道別

神春
又音馬別

いそぢ

五十

ノノ

いちぢ

一途

ノノ圖
向く

いりぢ

一定

ノノ

いちぢ

一疊

ノノ
疊入声テラ

いりぢ

一帖

ノノ
紙紙

いちぢ

一乘

ノノ
其ノ大ノ

いりぢ

一頃

ノノ

いちぢ

一食

ノノ
一帖

いりぢ

一實

ノノ
音頓

いちぢ

一字不説

ノノ

いづき

何孰

いづら

何不

伊勢物
其名

いづこ

何所

ノノ
一國

いづち

何地一方

いづらんぞ

何焉安何日何月何年何日何月何年

いぎう

以上上以下下以上上以下下

いぎう

勞煩勞日煩日

いぎう

徒空徒日空日

いぎう

出出日

いぎう

揭焉揭日焉日

いぎう

苛苛日

いぎう

泣憂泣日憂日

いぎう

居居日

いぎう

壹壹日壹壹日調調日

いぎう

噓噓日魚魚日水水日

いぎう

勞煩勞日煩日

いぎう

徒空徒日空日

いぎう

出出日

いぎう

揭焉揭日焉日

いぎう

變變日

いぎう

天短天日短日

いぎう

居居日栖栖日坐坐日作作日

いぎう 貸貸日税税日日本紀

いぎう 欠欠日付付日

わんご 韻字 文字リ

いんご 得讓 揖入声イツ

第二ろ

ろくぢ 陸地 海濱

ろぢ 爐地 一云地或作

ろんご 論不

ろひ 盧頭 草根

ろくご 鹿茸 フクゴノク

ろぢご 六地翁

ろくご 六帖 本ノ名 源氏六帖月

ろくごせ 六位宿世

ろくご 六字 源氏ノ名号 一礼賛月

ろくごて 論 伴務約終 けしち候名月

ろくご 六塵 スノ月

ろくご 箒 箒

第三は

しまぢら 濱路

もづう 羽束師 森 嶽

もぐとま 中 蔀

もすゑ 齋 一云うえ 初枝 糸末 日

もあぢら 花 摺 衣

もぐとま 薑 姜 日

もんぢら 女 桃

もすぢら 八王子 糸

むらぢら 方丈 寺 記

もんぢら 磐石

もあぢら 花 柑 小

もあすゑ 花 蔭

もすゑ 波 大 蔭 名

もら 巴 豆 茶名

もぐ 名 和名ハニシロ或昏ハチ未考

もんぢら 春 神 三子

もんきり 番匠

もんきり 列者りゆうしや 道みち

もんきり 八林殿

もんきり 坊主 寺

もんす 答た 矢や 朔しつ

もんす 張鼓

もんづ 絆綱 緹てい

もんづ 紉ひ 手て 麻あ 糸いと

もんぢ 華鬘けわん 女にょ

もんぢ 職しやく 旗はたけ 符ふ 人ひと

もんぢ 半はん 尊そん 小せう 尊そん

もんぢ 勝しょう 示じ 榜ぼう 示じ 榜ぼう 示じ 榜ぼう 示じ

もんぢ 表ひょう 裏うら 狸ねこ 薄うす 萌も 芽め

もんぢ 墓誌

もんぢ 放生はつじやう 一いち 會かい

もんぢ 鎧よろい

もんぢ 弟てい 事じ 徒た 事じ

もんぢ 白しろ 月つき ヤや スす バば

もんぢ 栢はく 樹じゆ 子こ 禪ぜん 話わ

もんぢ 敬けい 系けい 日にち 照しやう

初

ちづめ 始初初 ちづめ

ちくきう 白狀自罪

ちづく 弾一指

ちきう 若無人

ちち 恥愧羞

ちちづめ 花鎮奉幣使

ちのづめ 巴字水曲水

ちんづめ 判録

血

ちみぢら 血白

ちづめ 外弛

ちみぢら 答約

ちづめ 刷羽刷羽

ちづめ 恥同上

ちみぢら 鞠ハツム

ちんぢら 万仞八尺

ちんぢら 掃墨キ

あど 虹霓

あきうがぐけ 二上岳 山名

あきん 人參 菜名

あまぢぢ 女孀 女

あんぢん 人神 人神ヲモテ
禁灸針

あぐぢぢ 肉食 肉或作突裕
作完謄也

あえぢぢ 人情

あぢぢぢ 入定 ぢぢノ後
下月

あぢぢぢ 刃傷 一殺害

あぢる 空あぢる松廻

あぢぢぢ 庭傍 冬リツク

あぢぢ 西陣 京

あんぢん 菜名 胡蘿蔔
似人參故云介

あんぢぢ 人數 ぢぢトカ

あんぢん 人身 維受一

あまぢぢ 如青トモテ

あんぢぢ 人中 天上

あまど 入寺 入堂

あぢぢ 任 官職ニ入
あぢトテ九

第五ほ

まのすち

まのすち

わんぢや。 中 不 地みー

わうでう 小 條 南一五多氏

わんト 中 寺 末ち

わづづき 和名系ウツキ 鬼燈 酸漿

わんぢや 菩 提樹 一が日

わづのあえん 穂 稗 草

わぢや 脯 わぢや 乾肉

わんぢや 本 地 一無迹

わんト 梵 字 天竺文字 悉曇

わづづき 法 氣 付 源氏法入声字 昔ハホウト息ス

わんぢや 本 直 律 俊

わうト 法 事

わんぢや 本 生 せれつとん

わづいふめ 布 衣 始

わんぢや 百 部 わん

第六

魚いぢり

屏重門

へいじょう

魚いど

平氏

平家人

魚んぎや

扁鵲

中華ノ
名醫

魚んせう

遍昭

良岑信正

魚いど

瓶子

酒器

魚んごふ

返牒

牒状

魚んぎや

返状

返書

魚んぎや

返書

一見

魚んご

返事

カガヒ

魚んぎや

返上

タテマツル

魚らじ

別事

一時

魚らじ

表示

不
瑞表

魚らじ

別時

一見

第七と

冬

冬

とうと 冬至 十月中

とうと 東寺 西寺

とうと 東條 西川

とうと 燈心 スミテモヨム

とうと 閻闍 スミテモヨム

とうと 童子 ト男

このもづと 主殿寮

このもづと 同宿

とと 刀自 ホトケ 又佛也 母名

とうと 童男 ト男

とと 毒蛇 作地月

とと 鱈鯨 日

このもづと 伴官奴

このもづと 纜 舟具

とと 鈍色衣

とと 屯食 ツクニ食人

とと 殿造

とと 取梶 日 舟具

とらうまや 同車トスニ下ニル

とらうト 同事不異

とらうぢやく 貪著貪ホリツク

とらうまう 同諱タカヒイサカラ

とらうづる 閉閉 緘一書

とらうひる 閉とらめて丸

とらうまき 登城

とらうまじ 讀誦

とらうまぢ 貪噴癡

とらうまう 動靜

とらうて 同上

とらうまじ 不不 同同 月月

第八ち

ちよや 除夜土月晩夕

ちよくせ 濁世未代 乱 悪

ちりぢり

上の十九

ぢ

地 大 | 陸 | 本 | 空 |

ぢぢえ

地震 フシ

ぢぢぢ

地獄

ち 一云こちろ 路 スミテ云連声テノ路ルニ
海路ニ 山ノ夢ノ舟ノ小

ちりぢり

塵塚

ちりぢりぢ

塵泥 カミ

ちんぢぢふ

鎮守府 奥州 將軍

ちんぢい

塵埃 ホコリ

ぢぢぢ

住所 内 處

ぢぢぢ

住居 タビ

ぢぢぢ

地黃 茶名 生 熟

ぢんぢぢけ 沉丁花

ぢぢぢ

丁子 香具

ぢん

沉 一 香

ぢぢぢ

地主 一 権現

ぢぢぢ

地頭 一 代官

ぢぢぢ

住人 某國 一 民

ぢぢぢ

紳人 ナカ

ぢぢぢ

住持 一 僧 侶

ぢぢぢ

定使

ぢぢうふ 丈夫 カチ義科

ぢぢうぢぢ 長者 月益一 須達一

ぢぢうぢぢ 聽衆 一聞衆

ぢぢい 祖父ヲ云又老翁ヲ云或云おぢぢ
上畧故おぢぢをヲぢぢをト云同也

ぢぢうぢぢ 中將 古リ姫ハ
古リ女名

ぢぢぢぢ 地藏 菩薩
薩埵

ぢぢうぢぢ 仲尼 孔子ヲ字也

ぢぢんぢぢ 鎮守社

ぢぢうぢぢ 鍬鉈 一石イ

ぢぢ 柱琴箏

ぢぢうぢぢ 又人 老丈
荷實

ぢぢうぢぢ 殿ニ或作尉ニせうトヨル但
職原抄尉丞掾皆せうト訓ス

ぢぢよぢぢ 女色 男ハ

ぢぢよぢぢ 女中

ぢぢふ 治部 卿大輔 少輔
丞録

ぢぢうぢぢ 迎付 中ニ

ぢぢぢぢ 地主 一方一形
一祭一築

ぢぢぢぢ 地神 堅固一
一五代月

ぢぢぢぢ 軸 車一筆一
金一地一

ぢぢ 柱琵琶

ぢら 帙書

ぢらと 帙簀ハシ 經卷、帙ハシ 如簾者

ぢくろ 舳艫トモ 舟首尾

ぢぐえ 縹縠ハシ 縮

ぢやうぎ 定規或用繩規字

ぢんごの 沉水

ぢんごと 重箱提重

ぢらうぎ 晝食ヒル

ぢやうきやく 丈尺六尺

ぢらごう 直綴

ぢらすぢら 脉絡 血筋日

ぢら 痔漏尻病

ぢらびやう 持病痼疾 藥日

ぢら 持勝負相對 碁日

ぢら 地弓、勝負員ニ 賭錢ヲ地ト云

ぢら 地子年貢

ぢん 陣軍一先一所一頭 又九近

ぢんごの 陣座禁中

ぢやうぎやう 頂上ハシ

ぢらごう 近付親ム

ぢらすぢら

上の二十

こまうづ 終頭 鐘くしえ

りんぼと 綾子 唐音く 或綸子

アもきじ 令肯宮く

アも寛 利潤 或理順

アもきえ 理不盡

アもきう 領狀 ウケタ

アもきう 臨終 臨命終時

アもド 臨時 祭日

第十ぬ

ぬまうづ 沼津 東海道

ぬもりのぢらん 縫殿陣

ぬうづきひ 叩頭虫

ぬうづく 頓首叩頭

ぬまうづ 抽 辛出之

ふり

ふり

幸す

第十一

るいぶつ

累月一年連日カサヌル

るいぶ

類集 日あ

るいぶ

類聚書名用

るいぶ

類字 日あ

第十二を并ね

おんづき 勝月

一 夜日

おんぢ

恩地一 氏日

おんぢ

祖祖父 孫 孫 孫

おんづ

鬼塚

おんぶ

遠志 茶名

おんぢ

應神人王十六代ノ帝 即八幡宮也

十一

おんやじ 陰陽師

おんあむじり 大汝 神名又云 大己貴日

おんぢり 舅伯父叔父 叔父

おんぢりのみま 駿馬 尾白

おんづ 騰

おんまづき 几ヨリカリ之机

おんづら 鞞 馬具 一頭絡一曰

おんづら 綱 大綱

おんきり 温石 茶石

おんきり 眞炭

おんぢり 鋸屑

おんぢり 飲食 ノミモノ

おんぢり 飲酒 一戒

おんぢり 音声

おんぢり 恩恤 クニニ

おんぢり 應 おんぢり

おんぢり 面梶 面楫 舟右へ向

おんぢり 重 おんぢり

おんぢり 項 全囊抄出注

おんぢり 同 おんぢり

カキ

カキ

よのびづろ 自フシツカラス己ヤヤ

よのぐぢろ 各自カミ恣カミ我カミ恣カミ之カミ

よとづもよとづも音信消息ヨ

よとづろ 怖カミ畏カミ

よぢろ 畏カミ同上

おろぢろ 麩カミ似カミ麩カミ而カミ大カミ之カミ

第十三わ

わろぢろ 王城カミ皇カミ都カミ同カミ

よとづと 智田津海カミ海カミ童カミ重カミ海カミ神カミ

よろぢろ 性昔カミムカミカカミ

わろと 皇子カミ王カミ子カミ

よとぢろ 和尚カミ花カミ嚴カミ宗カミ各カミ負カミ

よとぢろ 別カミ甕カミ槌カミ神カミ名カミ

わけいづち 別雷カミ社カミノカミ

よとづと 脇カミ机カミ凡カミ

まのぢら 脇梶はしはら

まのんづ 草鞋ワラジ

まのぶの 若水元且

まのぢら 皇麁樂名

まのづら 纒僅才源氏

まのぢら 疋弱ヒツク

まのぢら 煨燼火事

まのぢら 同上まのんづら

まのぢら 黄木吐水

まのぢら 往生極樂

まのぢら 煩累日

第十四か

まのぢら 神カニナ之月カニナシ

まのぢら 釜作棧

まのぢら 庚申スミテモヨム

まのぢら 碓道山道

志らす

かづらき 葛城大和

からちり 歩路一乃

上のサ

かみちやう 函丈 方丈

かみちやま 律道山 伊勢

イルツエラ

かづまはら 上総一氏

かづづけのほ 上野 古作上毛

かぢら 梶原一氏

かぢら 梶井 宮

かぢら 香椎 宮

かぢら 通路

かんと 閑所一處

かハツ 河津一氏

かづら 柑子 和名カシ

かづら 香薷 菜名

かぢら 穀 木名 桑 穀 葉 又 楮 糸

かづら 蔓 後一 藤 白

かんと 感神院 祇園

かんと 神司 職神宮

かづら 唐人

かんと 菅丞相 聖

かゝるゑ 海神

かぢら 鍛冶

音タシロ似鍛冶字故
倭俗誤為カチ其弊久矣

かぢらとらう 垣下主

かぢらうせえ 海住山 ト家称
号有之

かづつき 傳

かぢらうとらう 麝 豚ヲイフ
奇

かどり 河鹿 魚名在
山川能
吟可也

かんぎ 干珠 満珠
ホヒル玉

かんぎき 權 重中不月

かんぢり 紺地 こんぢり

かづき 潜女 延鯉海人
カツキカツキ
カツキ

かづきのと 主計頭助允

かぢら 蛙 水虫

かんぎや 苜蓿 釈迦姓之
又砂糖木之

かづじ 講師 續原

かぢらき 梶取 職師
和名

かぢら のと 数子 魚子

かんぎよ 漢書 前後

かぢら のと 葛緒 琴之

かんぎう 感狀 褒功書

かぶるう 嘉祥六月十五日

かぶるう 嘉定通宝年号

かぶるう 定考逆ヨム又考定

かぶるし 勘定勘当

かぶるえ 幸甚殊に喜ぶ

かぶるう 高聲

かぶるう 剛柔コヒヤカ

かぶるう 強弱ツヨクヨカ

かぶるう 高直代地多き子高貴直値

かぶるう 戒定恵三学

かぶるう 好事ヨキコト

かぶるう 好事事このむ人

かぶる 數負官量 名乗

かぶる 數々

かぶる 數算和計

かぶる 不數不肖不日

かぶる 偏迫片諾

かぶる 必要

かぶる 加づらかぶる

かぶる 愛冊日 衿日

志らする

かゝえづき 乾嘔

かえん

肝心 肝要

かんぢやう 勘定 筭

かまづ

奏 一曲 曲

かこづ 堅唾 粘唾 稠

かすまらう 被敷

かまもづみ 假名文字遣

或假名仕アリ使ノ字不認ハ親行抄始今ソレヲニ入丸秘抄ト号スハ誤ナシ

かすけなう 忝辱

かてう

箇條ヶ条 畧

かぢら 加持 祈禱

かづく 被頭

かづく 潜 海人ノシ海底ニ入テ 貝藻等ヲ一キ舉ル

からびて 辛 辛勞 苦

かづる 悴 憔悴 顛顛

上のサハ

第十五よ

よくちう

異日ツキノヒ 明日アスカ 翼日ツバサノヒ

ようちう

雍州 皇州

うーず

葦洲 江

うらむろ

踏雪 馬四足自

うーず

葦簣アシカ

ようじ

用事ヨウジ 俗用ヨウジ 不是フジ

よそち

四十 五十

よづる

攀縁トク 上トク 下トク

よづる

世よヨ ありア ぬヌ ぬヌ

よちう

餘日 一人事

よつちう

四辻十字路 四舎

よそち

冥途 一路 仏法

よめづる

媵嬪トメ

よすへ

夜居 鷹

ようち

用心 一々

よろの

萬代マンダイ 万

よちて

同上

三つ

上

第十六た

たけまゐてん他化自在天法

たづまのま但馬和名京田道間

たうぢやう道場寺

たいぢら大地

たろまろ多羅樹

たまろく玉葛玉長曼

たろダイ丸太上天皇帝

たいまろ大神天照宮オホカミ

たろまろ唐人中華人

たいまろ他人外人有心カニシ

たけろつら武甕槌命ニミコト神

たろくま手力雄神名戸隠ヒカケ

たろまろ太政大臣

たいまろ大臣内右

たろまろ彈正基尹忠大

たいまろ大判事判官

たぐらう 大宮司 伊勢 伊勢

たぐらう 鷹鳥師 鷹鳥師

たぐらう 男女 漢音 ちんわん

たぐらう 大樹 將軍別名

たぐらう 佛 忌廻

たぐらう や太郎冠者

たぐらう 多治見氏

たぐらう 鶴田 ツル 別名

たぐらう 道祖神 サイカシ

たぐらう 短冊 哥 尺

たぐらう 高坏 土器

たぐらう 大乘經

たぐらう 手綱 馬具

たぐらう 手束 杖

たぐらう 玉章 文瑤

たぐらう 大床子

たぐらう 手籠 杖

たぐらう 大乘 小乘 仏法

たぐらう 大賞會 本邦 大祭

たぐらう 對陣

たしずむ

だいど 大事

たんきう 誕生 一一日月 一木月

たいきう 怠状 どきう

たらしむ 立直直立 立

たまきう 靈鎮鎮魂 土月 晦月

たづま 携 たづま

たずむ 佇 字畧 偏 徒倚寸歩

たみず 手子

たしずむ

たいぢり 退治 敵ヲスレ 或對治也

たんきう 斷食

たうちり 湯治 温泉入

たどあ 無他事

たづぬ 尋討 日

たらしく 牢籠

たずま 立住居 立栖居 日 たみず

連目 累目

連社 寺

連實

伶人 樂人

連枝 兄弟別名
連枝

連署

連雀 負物具似鳥
或連若丸

療治 病

禮狀

靈場 地

櫛子 窓

連枝 理
未合枝

連衆

練鵲 鳥名
又連

連狀 判

瑞奇 奇

聊介 拵

禮讓

第十八

とら

そくぢう 即日一時日

ぞくど 俗士非道人

そらづ 僧都 傍友大少権

そもど ソナガノ畧ナリ 其がノ畧ナリ
ソ文字

ぞんと 存 存ひなほ存等ぞんぞんぞんぞん

ぞんぢう 存生 一命人ナカラ

そしして 總総總總

そぢう 餅状 ウツク

そらど 卒尔 忽々

そくづ 蒴藿 多名

そらぢう 僧正 傍友大正権

ぞんとや 尊者 達磨

そやづ 添水 ちとら 田舎

ぞんぢり 存知 知人

そんぢう 謀條 謀某

ぞんぢう 損 ぞんとて丸

そらぢう 奏状

そらづら 岨傳

第十九つ

つとせ 旋風回颯 颯回颯 颯回颯

つらとり 九折一坂

つとせ 綴喜山城

つとせ 都筑氏

つらら 葛藟葛藟 葛藟葛藟

つとせ 豆豉菜名

つとせ 短苗短苗

つとせ 頭上 脚上

つらら 辻十字路頭 十和名

つらら 築地築築地 塙和名

つとせ 厨子一 小一

つとせ 躑躅花角花 躑躅和名

つとせ 荳蔻菜名 荳蔻菜名

つとせ 土筆杉菜 花花

つとせ 綴綴 蟹キリ 蟹キリ

つとせ 旋旋 頁會 廻廻 毛毛

ちりちり

づちう 頭腦ナヅキ

づまよ 圖書頭助

づ 圖畫繪

づら 葛蓐

づぐぐき 徒然草昏名

づんむの 礫沙岩方槍

づづえ 鼓願サシ

づまづ 躓跌躓

づまぐ 端々

づまやう 約ひら

ちりちり

づちう 頭風痛

づーと 通事通

づー 厨子シ

づまえん 頭巾

づえん 鼓腰

づざ 頭陀袋

づまんとくき 彈指爪

づけいとうまひ 屬馬

づまぐ 熟熟熟

づまやう 外圖當

つぎぐし 方便

つぎぐし 通つぎぐしトラルカヲ

つぐる 綴綴破衣ヲツヅル綴はぐり月俗云ツヅル

つづ 配配俗或用宛字配ハタチト云

つづ 或云十九二十ヲ

つぎぐ 徒然トセシサビシキ

つぎぐ 序叙序叙つぎぐつぎぐはぐりはぐり按キイ

つぐく 續連續連つぎぐつぎぐ

つぎぐ 実ある事実ある事おまぐりおまぐり

第二十ね

つぎぐし 芝居芝居ト云

つぎぐし 百倍百倍和名云

つぎぐし 鼠鼠拵子拵子木名子スニモチ

つぎぐし 鼠鼠甘口甘口月月

秘いぞえ 倭人

子矢大

秘らげびと 倭人日上

上のサ

秘んぞるじ 年行事明り 秘んじや 念者

秘んぢらうじ 年中行事 秘んぢ 念珠 ぢぞん

秘んぢぢ 念誦 佛經 秘ずぢぢ 唧 日 鼠鳴 日

子スニナキ

秘んぢぢ 念一佛 秘んぢぢ 忍 秘んトスルハ

子ツズル共

秘づ 拍捨 日 鼻 秘らて丸 指 日

ヒミ 子矢大

第廿一な

あづづき 暢月 九月

かふむづ 難波津 持列

あまら 浪路海上

あづな 薺 七種

あんぢり 汝尔

あまそら 蚰蜒 蟪蛄

あまら 歴易病

あまら 驗尾 大カ

あまら 疏灌頂法

あまら 泥 執滞

あまら 誥 向難向

あまら 摩撫

あんでう 南條氏

あづつら 中務 卿大捕 少捕丞

あまら 鯨 鱧

あづき 腦

あぢり 梨地 蔚給

あまら 馴 睦

あんでう 就中

あまら 怱

あづふ 昵近 親昵

あまら 何條 伊勢物語

エシテ

あんぶふウ

あづくる

難澁澁入声

名付即命号

あふウ

あずらふ

納受納入声

准擬あふウ

上のサ

蜺縮涼鼓集上終



62371

4N-1:KN

~~62371~~

Sh 32

1

Handwritten markings, possibly a signature or initials, located in the bottom left corner of the page.

国立国語研究所



1001152857